

平成 23 年度第 1 回診断評価等基準委員会議事録

開催日時:平成 23 年 8 月 21 日(日) 13:00-15:00

開催場所:東京丸の内ホテル

出席者(五十音順)

川上 守(担当理事)、紺野慎一(委員長)、笠井裕一、加藤圭彦、金森昌彦、金山雅弘、竹下克志、田中信弘、種市 洋、細野 昇、松永俊二(委員)、高橋和久、千葉一裕、宮本雅史、福井 充(アドバイザー)

【報告事項】

1. 前年度までの課題の進行状況
 - (ア) JOABPEQ, JOACMEQ のマニュアル書作成に対する寄付金は 390 万円の申し込みがあった。
 - (イ) DISTO project による JOABPEQ の年代別平均値の検討が進行中。
2. 委員の辞退
 - 谷口慎一郎先生が転勤に伴い委員を辞退された。
3. 脳脊髄液減少症研究班診断基準案検討結果承認の件
 - 日本脊椎脊髄病学会の理事会で承認された。
4. JOABPEQ、JOACMEQ に対する会員に対するアンケート調査結果(笠井委員)
 - 297 名から回答が得られた。JOABPEQ、JOACMEQ を知らない医師が 40 名、JOABPEQ を使用したことがない医師が 113 名、JOACMEQ を使用したことがない医師が 136 名存在したことから、マニュアル本作成の必要性が示唆された。
5. 予算(川上担当理事)
 - 当委員会に対する今年度の予算は 360 万円である。
 - 日整会から今年度申請していた予算 260 万円が承認された。
 - マニュアル書作成に対する寄付金は 390 万円の申し込みがあった。
6. 学会主導研究における研究協力者に対するインセンティブについて
 - 千葉アドバイザー(本学会指導医制度委員会委員長)と紺野委員長とでたたき台を作成することとなった。

【審議事項】

1. JOABPEQ、JOACMEQ のマニュアル本作成(笠井委員)

笠井委員が編集した。事務局から参考書類を添付して後日執筆者へ依頼する。
執筆期限は日整会基礎学会期間中の次期委員会開催(10月20日)までとする。

2. JOACMEQ 基準値(田中委員)

被験者に QUO のプリペードカード(1000円)を渡す。季節的なバイアスを考慮し、9月中旬から開始し12月中旬までに終了する。アンケート調査書類の配布と回収は業者(MMT)に依頼する。研究施設として高知大学、和歌山医大、秋田大学を追加する。

3. プロジェクト研究のプロトコールについて

- ① 変性すべり症:「腰椎変性すべり症に対する手術的治療の有用性に対する多施設前向き研究」(加藤委員)
アウトカムに患者の満足度と腰痛疾患術後評価法を加える。
- ② 変性側弯症:「腰椎変性側弯症に対する手術治療の有用性に関する多施設前向き研究」(種市委員)
保存療法も検討する。施設の治療方針によるバイアスを減らすため、研究参加を全国の大学へ募る。
- ③ 頸椎症:「JOACMEQ を用いた多施設前向き研究—頸椎症性脊髄症を対象にして—」(細野委員)
研究期間は2年とする。術前と6ヶ月の時点で解析を行う。バイアスを減らすため JOACMEQ のアンケート調査は(費用が許せば)業者に依頼する。参加施設の選定と見積もりを細野委員が作成する。

4. その他

DISTO project の中間報告会で JOABPEQ の年代別平均値が報告された。
宮本アドバイザーから頸椎の JOA スコアのペルシャ語への翻訳許可依頼があったため審議された。欧米では旧 JOA スコアの modified version が多く使用されているため、modified version かどうかを確認し、modified version でなければ許可し、modified version の場合は関知しないこととなった。
次回の本委員会は基礎学会会期中(10月20日17時から18時)に行われる予定である。